

講演「関西学院大学のアカデミックコモンズから 始まる学びの再発見」

巳 波 弘 佳

(関西学院大学 理工学部教授・アカデミックコモンズ活性化委員会コンビナー)

1. はじめに

アカデミックコモンズ活性化委員会コンビナーの巳波と申します。私からは、本年4月完成しましたアカデミックコモンズについて、学内の皆様にお伝えする機会がほとんどなかったの、どのような理念やコンセプトでつくってきたのか、また、どのような活動を行っているのかということにつきましてご紹介させていただきます。また、私の講演後に、学生たちから具体的な事例を紹介します。

2. アカデミックコモンズとは

アカデミックコモンズとは何かということですが、スローガンとしては、「学生の、学生による、学生のための生きた学びの場」と定義しています。これが本学のアカデミックコモンズのコンセプト、理念です。学習と憩いと学生活動を融合させていく設計を行なっています。

アカデミックコモンズは、単なる建物ではなく、これまでの大学教育とは質的に異なる新たな学びの空間にしていきたいという、少し野心的な思いを持っています。このアカデミックコモンズでは、人々との出会いを通して、教員と学生はもちろんのこと、学生同士、また職員と学生、また外部の人たちとの出会いを通して、主体的に学んで、ディスカッションなどを通して何かを創り出していきたいと考えています。また、学ぶだけではなく、何か創って世の中へ発信していく、そのような学びの楽しさを再発見できる活動の拠点にしたいと考えました。

村田センター長からの挨拶にもありましたが、昔の西宮上ヶ原キャンパスでは中央芝生がそのような役割を果たしていたというお話を聞いて、私は非常に感銘を受けました。まさにこれは神戸三田キャンパスにできた新たな中央芝生であろうと思っております。建物ではありますが、目標としているのは、そういった知の共有が起こる中央芝生であると思いました。

アカデミックコモンズでは、知的好奇心や学びたいと思う意欲がかき立てられるようなアクティビティを、用意したいと考えています。これは、我々教員や職員だけが用意するのではなく、学生も含めて、学生と教職員が一体となって展開をしていきたいと考えています。また、誤解を恐れずにあえて言うならば、「学びのテーマパーク」にしたいと考えています。テーマパークと言いますと、少しネガティブな印象を持つ方もおられるかもしれませんが、学べることが楽しいという意味で、このようなスローガンを掲げています。そういった思いを込めたものが、本学のアカデミックコモンズです。

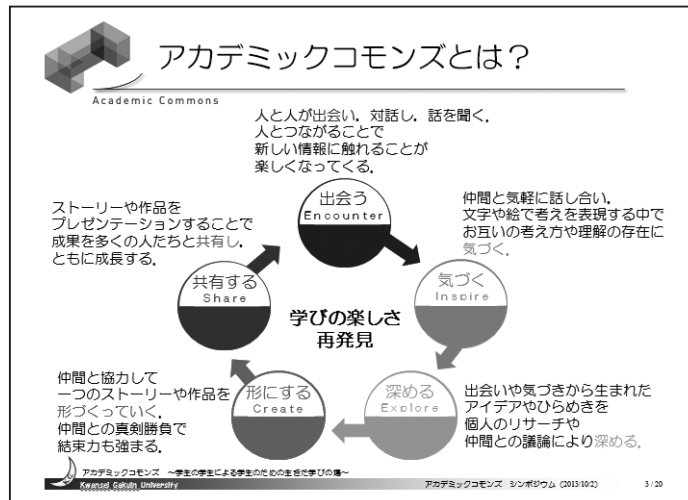
3. アカデミックコモンズにおける5つの機能

次に、アカデミックコモンズにおける5つの機能についてお話をします。5つのフェーズと書いてもいいかもしれませんが、アカデミックコモンズには、5つの大きな機能を持たせております。

まず、1つ目は「出会う」という機能です。これは、人と人が出会って、対話し、話を聞き、新たな情報に触れることで、学び、学習につなげるということです。そして、出会った次に「気づき」ます。その「気づき」とは、仲間と話し合って、議論する、ディスカッションをする、書くこともあると思います。そういう行動を通して、新たな考え方や視点に気づきます。そして、気づいたものを「深める」ようにしたいと考えます。出会いや気づきから生まれたアイデア、ひらめきを、さらに研究や学習、調査を通じて深めていきます。

普通は、ここまでが学習かもしれませんが、「形にする」ようにしたいと考えています。仲間と協力して、1つのストーリーや作品をつくってほしいと考えています。新たなコンセプトかもしれませんが、形にしたいと思います。またそれを、形にするところで止まるのではなく、さらにもう1歩進めて、「共有する」ことまでしてほしいと考えます。形にしたものを発信していくということです。何か自分たちで創ったという自己満足で終わるのではなく、プレゼンテーションを行うことで外部に発信していく、また周りに発信することで、その輪を広げていく、そういう共有をしていきたいと考えます。

こういう5つの機能を持たせたいと考えております。発信することで、また別の方が気づき、出合うようになり、他の考え方に会合ったりするわけです。このサイクルを通じて、学びの楽しさを発見してほしいと、そのようなコンセプトでアカデミックコモンズを設計してまいりました。



このアカデミックコモンズを支える組織として、アカデミックコモンズ活性化委員会をつくって、企画運営を実施しております。委員会のメンバーは、教員だけではなく、教員と職員が8人ずつをさまざまな部署や学部から選出していただき、教職員一丸となって企画運営する組織としています。そこに丸善株式会社によるプロジェクトチームと連携しながら、アドバイスをしてい

ただき、学生の支援、アカデミックコモンズの活動を支援しています。

次に、先程ご説明した5つの機能が、どのようにこの建物の中に組み込まれているのかをご説明します。

初めに「気づき」、「出会い」についてです。アカデミックコモンズのメイン空間として、2階まで吹き抜けで、800m²のアクティブラーニングゾーンがあります。このアクティブラーニングゾーンには、さまざまな組み合わせができる机が用意されており、スタイルや人数に合わせて自由にデザインできるものです。各スペースは、仕切りを作らないかガラス張りにしており、これは閉じこもるのではなくオープンにし、自分たちの活動をどんどん発信してほしいし、他の人たちがそれを見て気づいてほしい。そういった意味もありまして、仕切りのないガラス張りでオープンにして、それを徹底しています。そして、可動式のホワイトボードを多数設置しています。これは、とにかく書く、それを書き出してみんなで見る。そして、みんなでディスカッションをする。これを促進したいというのが趣旨です。飲食については、コミュニケーションの形は多様なものですから、一律禁止ではなく、ゾーンをわけるようにして、さまざまなコミュニケーションを受け入れられるようにしています。

あと、ライブラリーコーナーを用意しております。ここでちょっとおもしろい試みとして「感想リレー」というものを行っています。まず、本を読んで感想を書きます。それを挟み込み、それを置いておきます。また別の学生がそれを見ます。前に読んだ人はこんな感想を持ったのかということに気づいて、また自分も書いていくようになる。リレー的に自分たちのアイデアを共有する、時空間的につなげるような、そういう機能も持たせています。また、これは退職した職員からの寄附に基づいてつくりましたが、英語版コミックも用意しています。漫画はだめという考え方もあるでしょうが、きっかけは何であってもいいと思います。英語版のコミックをきっかけにしていくことは、それはそれでいいと思っています。

また、留学生も多数おりますので、例えば、サウジアラビアの方が講師となる語学カフェなども開催していますし、また留学先からの便り、また国際会議で行った先からの絵はがきなどを送ってもらって、ボードに貼って、世界とのつながりに気づけるような仕組みも作っています。

「深める」、「形にする」、「共有する」という機能に関しては、机上投影型プロジェクターや、ホワイトボードを用意して、ディスカッションができるようにしています。私は、実は大学が数学科で、大学時代にロビーにあったホワイトボードを友達らと集めて、広いホワイトボードをつくって、端からそれを書いていくということをしていました。定理の証明をすることなどに使っていましたが、そうすると色々な知識がホワイトボードのさまざまなところに書かれていて、それを一覧できる、すごく頭の中がクリアになって整理されるという経験がありまして、特に理系ではこういうのは有効であると思っていました。

あと、1人用の空間については、基本は造らないようにしましたが、個室では複数人共用で比較的静かに学べるリサーチルームを用意しています。しかし、このコーナーも後ろはガラス張りで、いつでもディスカッションに戻れるように工夫をしています。

また、2つのプレゼンテーションルームには、机といすが一体型になったユニークな家具を配置しています。可動式ですので、講師を囲んで座っている状態から、グループに分かれてワークショップをしようという場合には、さっと移動できるようになっています。本当にちょっとした

ツールですけれども、こういうものを入れることによってディスカッション、また学びが極めて促進されることになります。

さらに、2階にはクリエイティブスクエアがあり、天井には可動式の照明を備えています。このコーナーでは作品展示や写真展なども行われたりしています。成果をより多くの人に知ってもらって、「共有する」ことの重要性を体感してもらう仕掛けです。


憩いの空間、クレセントラウンジには、サント・アンという三田で有名なパティシエの名店に出店していただき、ケーキやコーヒーなどを提供しております。ここでアルバイトをしている学生は、接客を学ぶことにもなるので、今後発展させて、憩いと同時に、また別の異なった学びの空間になるのではないかと考えております。さらに新月の間という和室もあります。落語会やお茶会も何回か開催されました。

また、キャンパスの事務機能が学部と図書館を除いてアカデミックコモンズに集約されており、全てオープンにすることで、事務室も全面ガラス張りにしています。ガラス張りにより、事務室から学生活動を見ることもできますし、逆に学生からも見られるということを意識しています。

学生の交通アクセスの向上として、学外にあったバスロータリーをアカデミックコモンズに併設させる形で移設しました。バスの出発や到着の様子を見ながら、中で待てるラウンジもありますので、夏や冬は重宝します。このバスロータリーに、西日本で初めて導入された連節バスが到着します。

4. プロジェクト型アクティビティ






アカデミックコモンズに行けば、何かやってみたくなる、学生や教職員にもそれを感じてもらえるように、幾つか仕掛けを用意しています。その仕掛けとして、プロジェクト型アクティビティを考えており、そこには大きく5つのフィールドを用意しました。



**アカデミックコモンズに行けば
何かやってみたくなる**

Academic Commons

生きた学びのサイクルを動かす仕掛け：プロジェクト型アクティビティ

	<p>気づき・出会いフィールド：</p> <p>「出会い」や「気づき」の機会を作る</p>
	<p>もの・ことづくりフィールド：</p> <p>チームで一つのテーマに取り組んで、作品制作や活動を行う</p>
	<p>グローバルinkフィールド：</p> <p>異文化理解・交流を図る</p>
	<p>たて・よこきずなフィールド：</p> <p>卒業生と在学生の交流を通して社会に対する幅広い視野を持つ</p>
	<p>KGファン創出フィールド：</p> <p>地域と連携して関学の魅力の発信と地域密着型キャンパスを目指す</p>

アカデミックコモンズ ～学生の学生による学生のための生きた学びの場～

Keio Global University

アカデミックコモンズ シンポジウム (2013.10.2)

12 / 20

1つ目は「気づき・出会い」フィールドで、気づきや出会いの機会をつくるフィールドです。具体的には、クレセントアワーがあります。毎週水曜日の昼休みに実施しているもので、食事を

しながら、いろんな先生などの話を気楽に聞ける時間です。そのため、先生たちも学生が話を聞かないことに怒ってはいけないことになっています。実際、学生たちは真面目に聞いてくれる子が多いのでよかったのですが、これは両者にとって非常にいい、刺激的なジャンルと思っております。あと、先程も申しあげました本棚プロジェクト、これは新たな気づきを、本を通して知る企画です。あと、ビブリオバトルなども企画してくれております。

次に「もの・ことづくり」フィールドです。ここは、チームで何か1つのテーマで取り組んで作品制作を行なうフィールドです。具体的には、IT 世界展開プロジェクトがあります。これは、プログラミングの楽しさを世界に広げるといふ、情報科学系のプロジェクトです。ただ、プログラミングをするだけではなくて、その楽しさを小学生に知らせていくという活動もやっています。実際オープンキャンパスでは、小学生向けにプログラミングイベントなども実施してくれ、大好評でした。次に ACE プロジェクトがあります。これは後ほど、事例紹介で学生が紹介してくれますが、プロモーションビデオの映像制作をするプロジェクトです。あと、アイデア創出型コンテストも行いました。アップル社とのコラボレーションで、アカデミックコモンズで iPad をどう使うのかというアイデアを募集するコンテストです。これは7月31日に最終決戦がありましたが、5チームが見事なプレゼンテーションをやってくれました。秋学期以降、積極的にこういうアクティビティを実施していきたいと考えております。

「グローバル Link」フィールドは、異文化理解や国際交流を深めるフィールドです。留学相談会や世界の見どころを紹介するアクティビティを学生たちが実施しています。また、先程の語学カフェなどもこのアクティビティになります。

「たて・よこ きずな」フィールドは、卒業生と在学生との交流を行うことを目的としています。「OB・OG と考える関学の将来」ということで、6月に同窓生を呼びまして、一緒にディスカッションをするアクティビティを実施しました。

最後に「KG ファン創出」フィールドです。地域と連携するアクティビティです。オープンキャンパスは高校生向けのイベントですが、時間帯をずらして小学生を招待しまして、大学生や大学院生が先生となって科学のおもしろさを伝えるというアクティビティをやりました。これは大好評で、いつも先生から教えられて、怒られている学生が、今度は教える立場になります。そうすると、教えることの楽しさに気づいたり、また教えるためには準備が必要なので、自分たちの勉強にもなるという、そういうポジティブなサイクルをつくっています。

アカデミックコモンズには、多くのアクティビティがありますが、大体この5種類のどれかに分類して、それにあわせて実施していくようにしています。

また、5つのフィールドとは別に、クレセントチューター制度があります。これは、気軽に学生の相談に乗ってくれる先輩たちです。クレセントチューターと名づけた学生たちは、ライティングサポートやプレゼンテーションスキルサポートをしています。そのため、チューターは研修を受ける必要がありますので、研修の受講や勉強会を通してライティングをサポートできるようになり、またプレゼンテーションスキルもサポートできるようになってもらっています。こうすることで、自分たちが勉強して、その勉強したことを後輩たちに伝えることによって、それで自分たちの学び、また自分たちの周りにもその学びの効果を広げていく、そのような仕掛けを用意しております。

5. まとめ

アカデミックコモンズの本質は、「建物」ではなく、ここで繰り広げられる活動、ここで活動する、活躍してくれる「人」だと思っております。その活動を皆で支え育てるものであって、何々をしたい、何々をやってみたいという能動的な態度で取り組んでくれる人たちをプッシュしていきたい、サポートしていきたいと考えております。だから、受動的な態度ではなく、能動的な態度の学生さんたちにもっと活躍してほしいし、そう思う人たちをもっと巻き込んでほしいと考えております。実際、たくさんの学生たちがこのような態度で取り組んでくれておりますので、この輪をもっと広げるようにしていきたいと考えております。

一人ひとりやれることは少しかもしれませんが、大きなうねりを起こせると思います。自分たちが学びたいと思ったことを自分たちで学び、そして成長して、自分たちが関西学院大学のアカデミックコモンズをつくってきたと卒業した後に思ってもらえるようにしていきたいと考えております。